

175 兎ウイルス性出血病〔届〕

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD A["(1) 疫学調査"] --> C["(3) 剖検"] B["(2) 臨床検査"] --> C D["(死亡うさぎ)"] --> C C -- "(肝臓)" --> E["(4) PCR"] C --> F["(5) 病理組織検査"] F --> G["(6) 免疫組織化学検査"] E --> H["(+)"] E --> I["(-)"] G --> J["(+)"] G --> K["(-)"] </pre>
病性鑑定施設	<p>(+) (-)</p> <p>(+) (-)</p>
判定・結果	<p>(+) (-) (+) (-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に、病理組織検査、PCR等の結果により総合的に判定する。</p>
その他	

→類似疾病検査

- ① パスツレラ症(敗血症) ② 中毒性疾患

○ 病原体: 兎出血病ウイルス; Rabbit hemorrhagic disease virus [*Rabbit hemorrhagic disease virus, Lagovirus, Caliciviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 成兎(おおむね2ヵ月齢以上)で発症
② 主に接触感染により伝播。ウイルスは室温中で数ヵ月間生存
③ 高い感染率。死亡率は40～90%

(2) 臨床検査

- ① 元気消失
② 食欲廃絶
③ 発熱
④ ときに神経症状や鼻出血
⑤ 一般に甚急性ないし急性経過で、突然死することもある。

(3) 剖 検

- ① 全身諸臓器の点状ないし斑状出血、重度のうっ血
② 肝臓の混濁、退色、脆弱化

(4) P C R

肝臓の生材料または凍結生材料からRNAを抽出して行う¹⁾。

(5) 病理組織検査

- ① 肝臓の小葉辺縁部を中心とした壊死と偽好酸球の浸潤(壊死性肝炎)
② 諸臓器の出血と播種性血管内凝固(DIC)
③ リンパ組織におけるリンパ球減少

(6) 免疫組織化学検査

肝細胞やマクロファージにウイルス抗原を検出する。

その他:

本ウイルスの細胞培養法は確立されていない。

(参考文献)

- 1) Le Gall, G., et al.: J. Gen. Virol. 79, 11-16 (1998).